

2015年度 自己点検・評価【教育学部】

C票

<目標、行動計画>策定シート

作成日:2015年11月6日

責任者	教育学部長	作成部局	教育学部
-----	-------	------	------

2021年度に向けた教育研究目標

<p>【A票:教育研究目標1】 (タイトル) Mastery for Serviceの精神を「教育」に焦点づけ、世界市民の一員として、「人を育てる人となる」ことに使命を感じ、そのように自らを育てる力量を育成すること。</p> <p>(狙い内容) 基礎演習とチャペルアワーとの連携による自校学習メニューの構築。 教育学教育・教育者育成においてMastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会を組織化する。</p>

<p>1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標) 基礎演習等での自校学習を充実させるとともに、毎日のチャペル・アワーとも連携して使命感喚起の機会を組織化する。 専任教員がMastery for Serviceの精神をよく理解し、各授業との関連性を示し、教育内容に反映させることができる。</p>																				
<p>2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。 現在では以下の課題が考えられる。 1. これまでの伝統を生かした関西学院大学らしい教育学部の在り方の強化 2. 学校・家庭・地域・企業など社会全体にわたる 教育人材の輩出への努力 3. 学校・家庭・地域社会での教育をめぐる困難な状況を担い上げる使命感と人格、知識や技量を備えた教育者に期待する社会の要請にこたえること</p>																				
<p>3. 達成度評価</p> <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>(1)基礎演習での共通の自校学習メニューの確立とその学び合いのためのFDの定例化(宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催)。 (2)Mastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会の開催</td> <td>評価尺度</td> <td colspan="4">A:(1)学期内2回,(2)年2回 B:(1)学期内1回,(2)年1回 C:(1)学期内1回,(2)年0回 D:(1)学期内0回,(2)年0回</td> </tr> </table>							評価指標	(1)基礎演習での共通の自校学習メニューの確立とその学び合いのためのFDの定例化(宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催)。 (2)Mastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会の開催	評価尺度	A:(1)学期内2回,(2)年2回 B:(1)学期内1回,(2)年1回 C:(1)学期内1回,(2)年0回 D:(1)学期内0回,(2)年0回										
評価指標	(1)基礎演習での共通の自校学習メニューの確立とその学び合いのためのFDの定例化(宗教主事と基礎演習担当者との自校学習検討会の開催)。 (2)Mastery for Serviceの精神をどのように焦点づけるかについてのヒントを得ることができるような講演会・研究会の開催	評価尺度	A:(1)学期内2回,(2)年2回 B:(1)学期内1回,(2)年1回 C:(1)学期内1回,(2)年0回 D:(1)学期内0回,(2)年0回																	
<p>4. 年度毎の目標値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015年度(現状)</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> <th>2021年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>							2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	D	D	C	C	B	B	A
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度														
D	D	C	C	B	B	A														

<p>【A票:教育研究目標2】 (タイトル) 「教育とは何か」「人間とは何か」を不断に問いつつ、自ら理論と実践を往還し、教育学的思慮深さと機転に富んだ教育者としての実践的行動力の基礎を育成すること。</p> <p>(狙い内容) 新カリキュラムの全体としての理念を「学びの共同体」を通じて実現できるように、各授業でのアクティヴ・ラーニングの導入をすすめるため、「協同学習室」の利用率を高める。 教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化と参加率の向上。</p>

<p>1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標) 「教育学専門科目」と「リベラル・アーツ」を関連させた履修体系をつくり、学びの段階を設けて、広く深い教養と教育学的素養を身につけるシステムを再構築する。 「学びの共同体」としての実質を獲得するために、大学の授業実践に関する検討会を教員間でもつ。</p>																				
<p>2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。 現在では以下の課題が考えられる。 1. これまでの伝統を生かした関西学院大学らしい教育学部の在り方の強化 2. 学校・家庭・地域・企業など社会全体にわたる 教育人材の輩出への努力 3. 学校・家庭・地域社会での教育をめぐる困難な状況を担い上げる使命感と人格、知識や技量を備えた教育者に期待する社会の要請にこたえること</p>																				
<p>3. 達成度評価</p> <table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>(1)「協同学習室」の利用率 (2)教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化参加率の向上</td> <td>評価尺度</td> <td colspan="4">A:(1)70%,(2)年2回,70% B:(1)60%,(2)年2回,60% C:(1)50%,(2)年1回,50% D:(1)50%未満,(2)年0回,50%未満</td> </tr> </table>							評価指標	(1)「協同学習室」の利用率 (2)教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化参加率の向上	評価尺度	A:(1)70%,(2)年2回,70% B:(1)60%,(2)年2回,60% C:(1)50%,(2)年1回,50% D:(1)50%未満,(2)年0回,50%未満										
評価指標	(1)「協同学習室」の利用率 (2)教育学部内の他の授業実践を相互に知り、学び合うための公開授業や研究会の定例化参加率の向上	評価尺度	A:(1)70%,(2)年2回,70% B:(1)60%,(2)年2回,60% C:(1)50%,(2)年1回,50% D:(1)50%未満,(2)年0回,50%未満																	
<p>4. 年度毎の目標値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015年度(現状)</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> <th>2021年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D</td> <td>D</td> <td>C</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>							2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	D	D	C	C	B	B	A
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度														
D	D	C	C	B	B	A														